

お世話になったお返しに



千葉県婦性会
副理事長

君塚 淳

更生保護法人「千葉県婦性会」にご理解と心温まるご支援を頂きありがとうございます。

厚く御礼申し上げます。また個人、団体を問わず多くの皆様のご寄付、賛助会員として多大なご支援を頂き重ねて厚く御礼申し上げます。

当婦性会は更生保護事業法に基づいて自立更生に必要な保護を行い、その者の更生を図る事を目的とし大正三年四月に「千葉県婦性会」と改称された、法務大臣認可千葉県唯一の更生保護法人です。

皆様には引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

私自身振り返って見ますと子供から大人へ成長する過程は坦々なる道を歩んで来たわけではありません。少年期に戦争のむごたらしさ、むなしさを厭と云う程経験し、戦争末期には東京大空襲や千葉の空襲、特に私の育った蘇我地区は空襲と機銃掃射と悲惨なありさまをじかに目にしました。小学校の同級生も亡くなりました。

その生々しい印象は今でもはっきり脳裏に刻みつけられています。あの辛く苦しかった、戦中、戦後の一時期と比べますと生活はある意味

では確かに豊かに快適となりました。しかし、いつの世も同じですが道を誤る人も最近増えているようです。

そんなある日学校の先輩に呼ばれ昔話や世間話のあと蘇我地区の保護司をやらなにかと相談されました。

私は即座に先輩に良くご存知でしょう。私は保護される方ですよとお断りしました。

すると、だからやるんだ、これからは「お世話になったこの地区の方にお返しをするんだ」「これからはお返しの人生だと思つてやってみる」。

その一言が心を打ち柄にもなくお受けする決断をしました。正に「五十にして四十九の非を知る」でした。

任期中はいろんな苦労もありました。

特に対象者が再犯を犯した時は自分の指導力のなさに自信喪失になった事もあります。

逆に嬉しかった事もあります。退任一年半後に当時の対象者から電話あり「昨日で観察期間が終わりました」と連絡があった事です。

終わりにになりましたが更生保護に深いご理解をお寄せ頂いている皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



よろしく願います



千葉県婦性会
補導主任

青柳 宏之

今年度より更生保護施設へ福祉経験者の職員が配置されることにより、本年四月に採用され間もなく、半年を経ようとしております。

前職は特別養護老人ホームに勤務しておりました。出所者の高齢化が進んでいると聞き、福祉サービスが必要な方々へ円滑に結び付けられるよう、私の経験が少しでも役に立てればという思いです。

どうぞよろしく願いたします。